

発達障がい

発達障がいは、広汎性発達障がい(自閉症など)、注意欠陥多動性障がい、学習障がいなど、脳機能の発達に関係する障がいです。発達障がいのある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。

発達障がいの人たちが、個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子どものうちからの「気付き」と「適切なサポート」、そして発達障がいに対する周囲の理解が必要です。

困っていることを理解しましょう

広汎性発達障がい(自閉症、アスペルガー症候群など)

他人との社会的関係の形成が困難であることや興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障がいです。視覚・嗅覚・聴覚・味覚・触覚の感じ方にも特徴があり、過敏であったり鈍かったりする人もいます。また、言葉の発達に遅れがある人もいますが、記憶力が優れている人も多いです。さらに、常同行動といわれる「手をひらひらさせる」、「ぴよんぴよん飛び跳ねる」などの行動をしたり、気に入った同じ言葉を繰り返したりする人もいます。不安が強いので落ち着いてリラックスできるためにこのような行動をとる場合もありますが、困ってしまって大声を出すなどのパニックになることもあります。



いつもと違っていると不安になります。



コマーシャルの言葉や家族や職場の会話の一部を繰り返して言うことがあります。



大きな音が苦手です。

注意欠陥多動性障がい(ADHD)

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性を特徴とする行動の障がいで、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものをいいます。

学習障がい(LD)

基本的には全般的な知的発達の遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示します。

音声コード

